

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

第33巻 第1号



大笠山からの白山

おおがきやま 大笠山は、すぐ南方にあるおいずるがだけ 笈ヶ岳とともに北部白山を代表する山の一つです。石川県白山市（旧吉野谷村）と富山県南砺市（旧上平村）の境に位置し、稜線が大きな笠のような形の山で、標高は1,822mあります。南北に伸び、県境となっている稜線の北方からと南砺市の桂湖の上流から登山道がありますが、どちらも距離が長く登りの連続する健脚向きの道です。

山頂から南方を望むと白山がゆったりと裾を広げています。左から、中宮道の尾根、剣ヶ峰と御前峰（重なっている）、大汝峰、七倉山、四塚山で、この写真の撮影時期は6月中旬です。白山の手前に見える山が笈ヶ岳で、この山には登山道はなく、主に4月から5月上旬に残雪を踏んで山頂を目指す人が全国から来ますが、雪山の登山技術が必要な経験者向きの山です。（上馬 康生）

白山の登山者数

加藤 雅寛

登山者数を調べる

白山国立公園では、登山者数の正確な把握を行うため平成 15 年から環境省による調査を行っています。それ以前の登山者数は、限られたアンケート調査や抽出調査から算出されてきました。そこで、より正確な登山者数を自動的に把握するため、登山者カウンター装置を設置し、調査を行っています。

使用しているカウンターは、LR カウンターといい、赤外線センサーを利用し、「右から左」、「左から右」への方向別の人数が通過日時とともに把握できるものです（写真）。これにより、「登り」と「下り」別、日時別に人数が分かることとなります。

平成 15 年の調査は砂防新道、観光新道、平瀬道、別山・市ノ瀬道（チブリ尾根）、^{しやか}釈迦新道、中宮道、鳩ヶ湯新道、赤兔山小原口の 8 登山口で調査を行いました。しかし、思いのほかカウンターの作動状況が悪く、データの欠損が多かったため、平成 16 年の調査では中宮道と鳩ヶ湯新道での調査は中止し、砂防新道と観光新道に 2 基ずつ配置して行いました。

今回は、平成 16 年に行った砂防新道（設置場所：別当出合）2 基、観光新道（別当出合）2 基、平瀬道（大白川）1 基、別山・市ノ瀬道（市ノ瀬猿壁）1 基、釈迦新道（市ノ瀬湯ノ谷林道）1 基、赤兔山小原登山口（小原林道）1 基の 8 基、6 路線（図 1）で調査したものを報告します。



写真 登山者カウンター装置

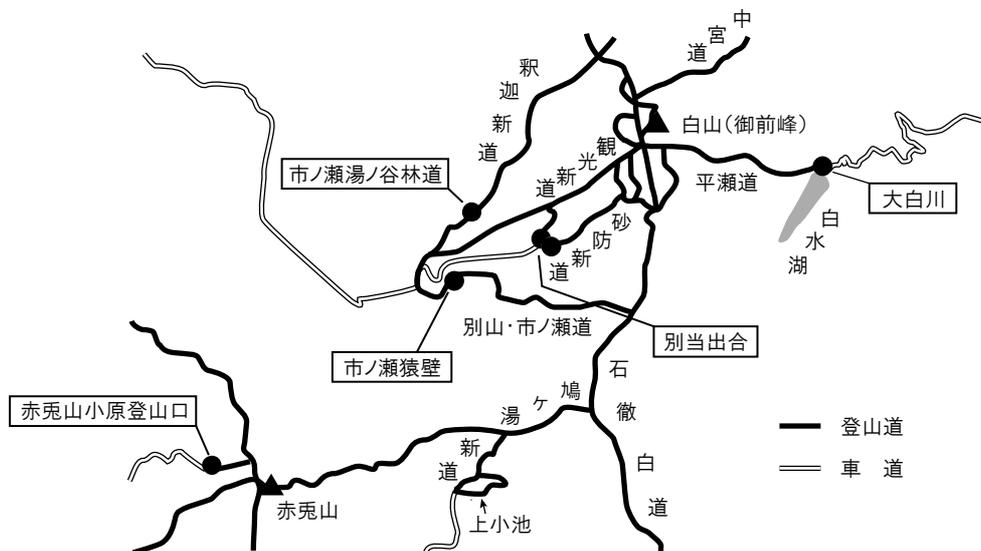


図 1 登山者カウンター設置位置
図中の●は、登山者カウンター設置点

調査期間は次の通りです。

砂防新道(※)、観光新道、別山・市ノ瀬道：5月1日～10月31日

釈迦新道：5月12日～10月31日

赤兎山小原登山口：6月18日～10月31日

平瀬道：6月24日～10月31日

(※)砂防新道は5月18日～7月23日の間、土石流によるつり橋流失のため通行止め。

7月24日新つり橋開通、通行止め解除。



平成16年の白山の登山者数

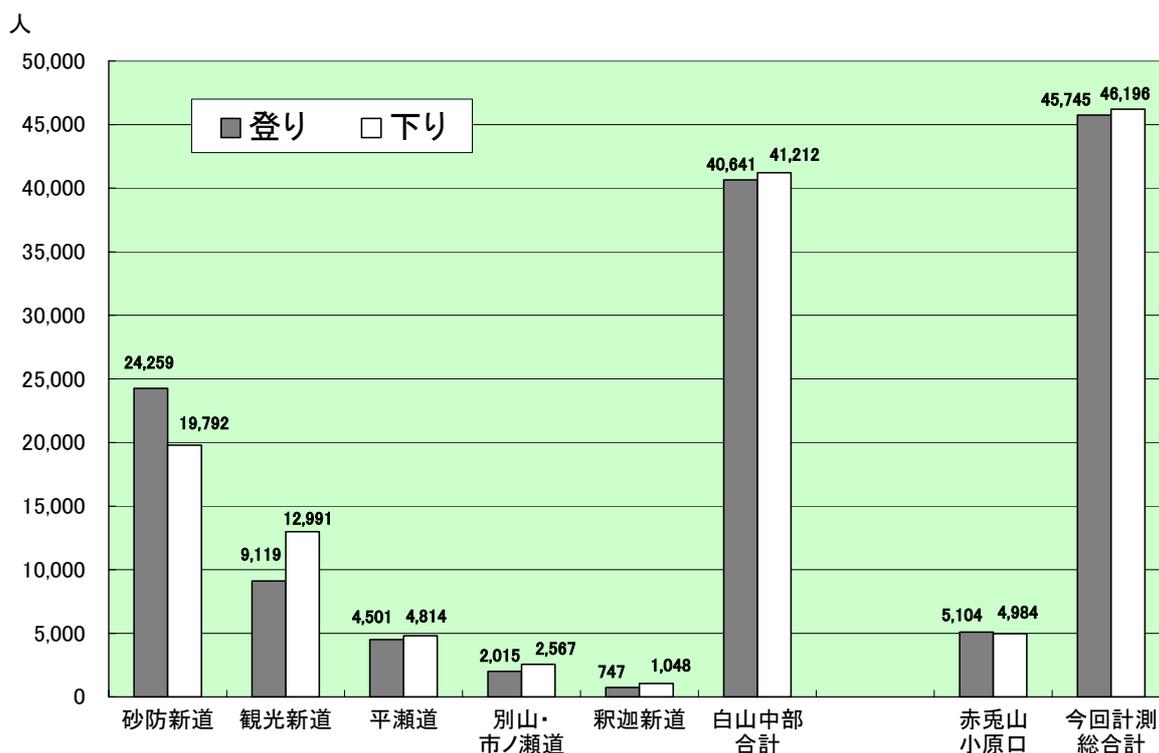


図2 登山道別の登りと下りの人数

今回調査した中で確認された登りの人数は45,745人でした(図2)。赤兎山小原登山口以外の白山中部(白山主峰を中心とした地域を主に利用する登山口)で確認された登りの人数は、40,641人でした。

登山者の登山道別割合は、登り・下りともに高い順に、1位：砂防新道、2位：観光新道、3位：赤兎山小原登山口、4位：平瀬道、5位：別山・市ノ瀬道、6位：釈迦新道で、砂防新道の利用率が非常に高いことがあらためて確認できました(図3)。また図3より、白山中部では、砂防新道の割合の

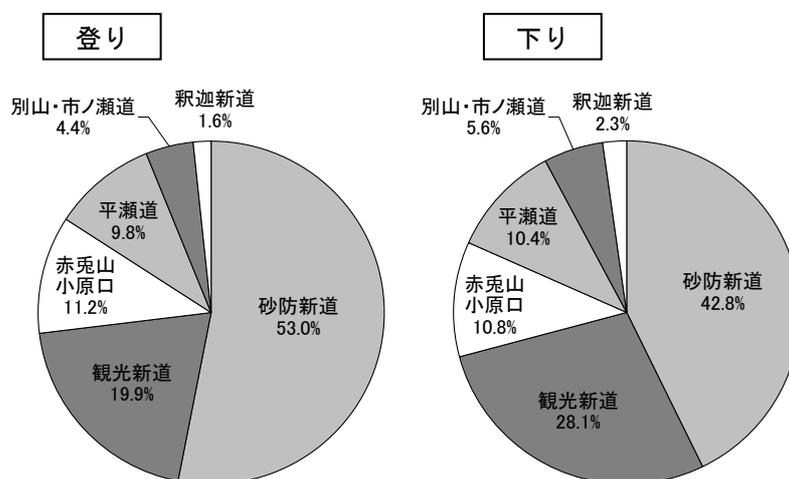


図3 登山道別の登り(左)と下り(右)の割合

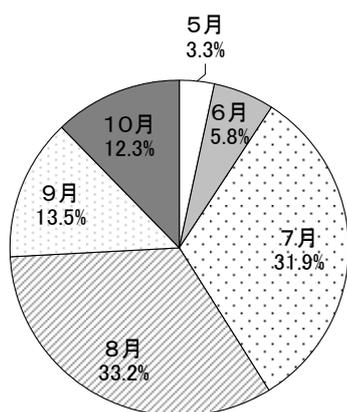


図4 月別の登りの登山者数の割合

み、登りが下りに比べて高く、他の登山道では全て下りの割合の方が登りより高くなっていました。このことから砂防新道を使う人の一部が、下りに他の登山道（特に観光新道 19.9%→28.1%）へ回っていることが推察されました。

月別の登山者数割合は7月、8月の夏季のみで65.1%に達し、5月、6月の春は9.1%、9月、10月の秋は25.8%でした（図4）。このことから春より秋の入り込みが多いことがあらためて確認できました。

平成16年の全体の入山者数は平成15年に比べ2割ほど減少しました（表1）。この減少理由については5～7月の減少割合は1割と少なく、8～10月が9割を占めることから（図5）、5月17日に発生した土石流によるつり橋流出のための砂防新道の通行止め（5月18日～7月23日）の影響はほとんどなく、夏・秋の週末を中心とした台風や悪天候による影響が大きかったと考えられます。

表1 登山道別の登りの登山者数の変化

砂防新道	H16	H15	%
4/30～5/17	640	15	4,267
5/17～7/23	0	1,276	0
7/24～7/31	5,420	9,589	57
8/1～8/31	11,464	16,445	70
9/1～9/30	3,825	6,010	64
10/1～10/31	2,910	3,121	93
小計	24,259	36,456	67
観光新道	H16	H15	%
5/1～5/31	439	57	770
6/1～6/30	1,329	211	630
7/1～7/31	5,200	1,631	319
8/1～8/31	1,008	1,522	66
9/1～9/30	502	846	59
10/1～10/31	641	1,558	41
小計	9,119	5,825	157
別当出合合計	33,378	42,281	79

平瀬道	H16	H15	%
6/24～6/30	34	42	81
7/1～7/31	1,750	1,145	153
8/1～8/31	1,518	1,831	83
9/1～9/30	601	864	70
10/1～10/31	598	491	122
小計	4,501	4,373	103
別山・市ノ瀬道	H16	H15	%
4/30～5/31	319	298	107
6/1～6/30	287	366	78
7/1～7/31	414	416	100
8/1～8/31	446	147	303
9/1～9/30	232	162	143
10/1～10/31	317	498	64
小計	2,015	1,887	107
	1,569	1,740	90
釈迦新道	H16	H15	%
5/12～5/31	116	49	237
6/1～6/30	173	118	147
7/1～7/31	123	143	86
8/1～8/31	94	157	60
9/1～9/30	150	199	75
10/1～10/31	91	172	53
小計	747	838	89
白山中部合計	40,641	49,379	82

赤兎山小原口	H16	H15	%
6/18～6/30	841	614	137
7/1～7/31	1,688	1,571	107
8/1～8/31	646	630	103
9/1～9/30	845	1,303	65
10/1～10/31	1,084	1,548	70
小計	5,104	5,666	90
総合計	45,745	55,045	83

平成15年に欠測有り

平成15年と平成16年の8月のデータを抜いて比較したもの

1日の登山者数が一番多かったのは、別当出合のつり橋が開通し、砂防新道の通行止めが解除された7月24日の登りで、1,127人でした(表2)。それ以外の2~7位も、いずれも砂防新道の登りでした。7月24・25日、7月31日・8月1日、8月7・8日の夏休み中のお盆までの土日に、砂防新道の登りが一番混み合うことがあらためて確認できました。

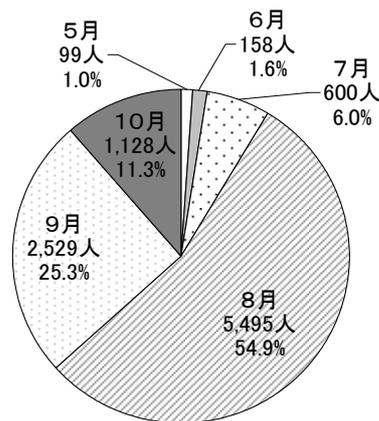


図5 砂防新道・観光新道において登りの登山者が平成15年に比べ減少した月別人数と割合

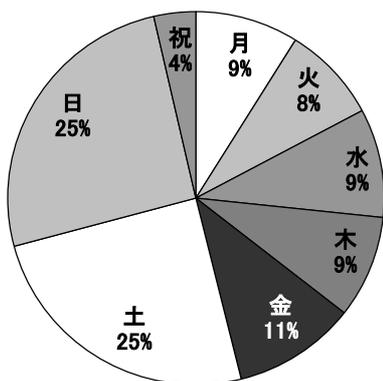
表2 登山者数の多かった日

順位	路線名	登り下り	月	日	曜日	実数
1	砂防新道	登り	7	24	土	1,127
2	砂防新道	登り	8	7	土	1,018
3	砂防新道	登り	8	21	土	886
4	砂防新道	登り	7	25	日	837
5	砂防新道	登り	8	1	日	807
6	砂防新道	登り	7	31	土	729
7	砂防新道	登り	8	8	日	723

登山者の多い砂防新道と観光新道

登山者の多い砂防新道と観光新道の登山状況について詳しく見てみます。曜日別でみると、登りは土・日曜日が25%ずつで50%に達し、平日は金曜日がわずかに多いくらいで、他の曜日ではほぼ同じ割合でした(図6登り)。下りは土曜日が20%、日曜日が30%で、やはり50%に達し、平日は月曜日がわずかに多いくらいで、やはり他の曜日ではほぼ同じ割合でした(図6下り)。登りと下りを比較すると、土曜日は宿泊者が多く、日曜日は日帰り登山者が多いことが推察されます。

登り



下り

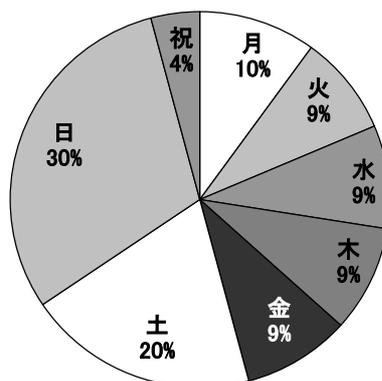


図6 砂防新道・観光新道の合計における登り(左)と下り(右)の登山者数の曜日別割合

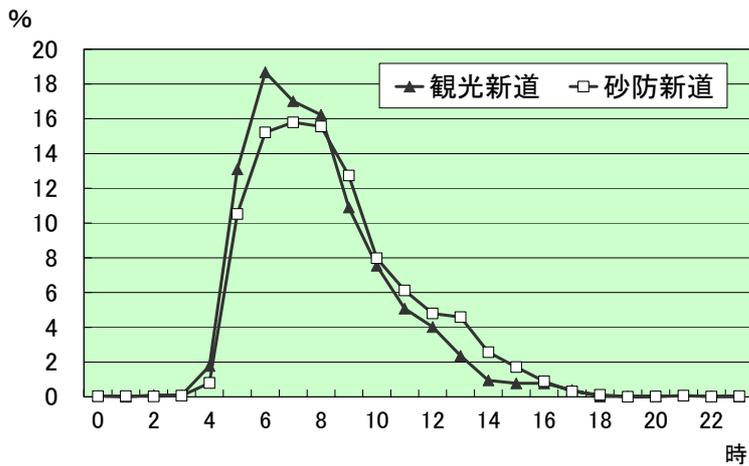


図7 砂防新道・観光新道における登りの登山者数の時間帯別割合

時間帯別では、登山道や季節によって違いが見られました。登りでは、観光新道の登山者は砂防新道の登山者に比べ、登り始める時間が早い時間に集中し、逆に午後の遅い時間に登り始める登山者は少ないことが分かりました（図7）。この理由としては、観光新道の登りは、砂防新道に比べ所要時間が多くかかることや、比較的経験者が選択することなどが考えられます。

また登りの砂防新道では5月・10月の春・秋は登り始めが早い時間に集中し、7～9月の夏は早い時間から遅めの時間まで登山者が見られることが分かりました（図8）。同じように下りの砂防新道では、5月・10月の春・秋は、遅い時間に下山時間が集中し、7～9月の夏は遅い時間と早い時間の2つのピークが見られました（図9）。これらより、春・秋は日帰りが多く、早く登山し遅く下りてくる人が多いこと、夏は日帰りに加え宿泊者の割合が増加し、遅めに登山し、次の日早めに下りてくる人の割合が増加するのではないかと推察されます。

同じように観光新道の下山状況を見ると、5月・6月は遅い時間にピークがあり（図10）、日帰りが多いことが推察されます。逆に7月・8月は早い時間に1つのピークがあり（図10）、2つのピークを持つ砂防新道の夏の状況（図9）とも異なっていました。

また、砂防新道と観光新道の下りを総合して比較したデータ（図11）を見ると、砂防新道ではふたこぶのピークが現れており、観光新道は早い時間帯に顕著なピークが見られ後半のピークは明ら

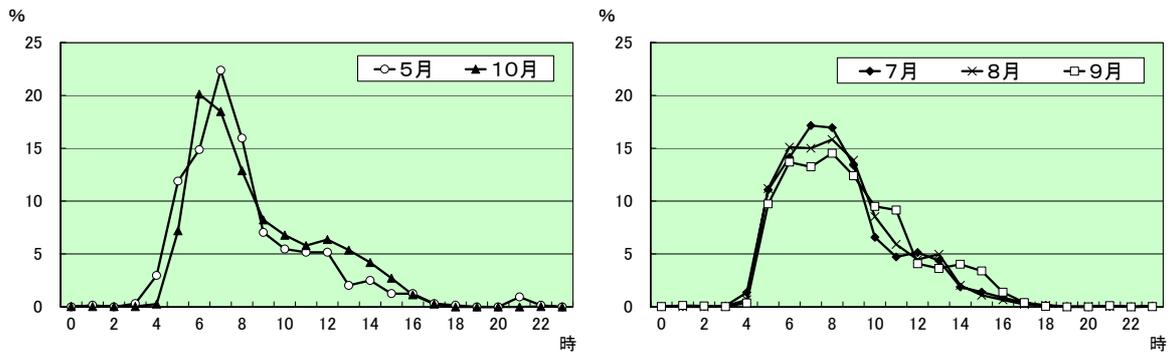


図8 砂防新道の登りの登山者数における月別の時間帯別割合

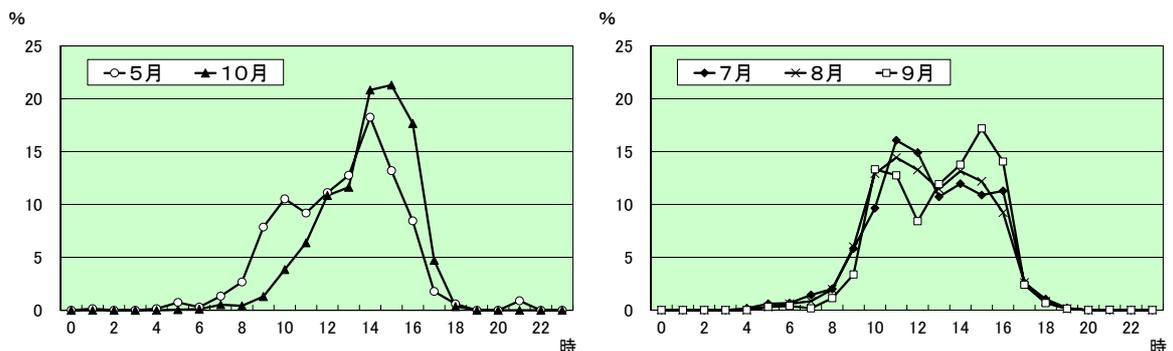


図9 砂防新道の下りの登山者数における月別の時間帯別割合

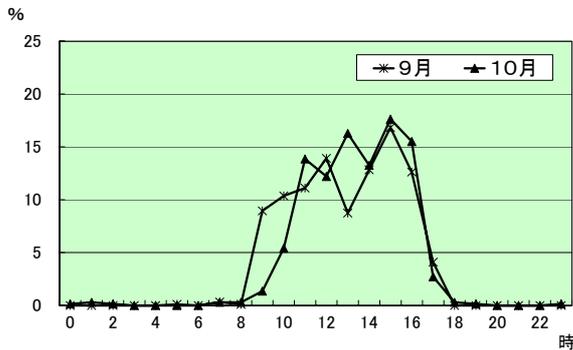
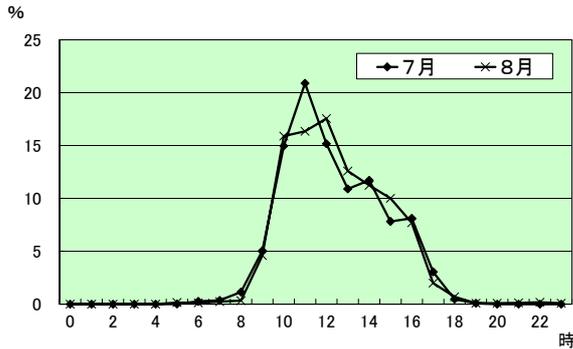
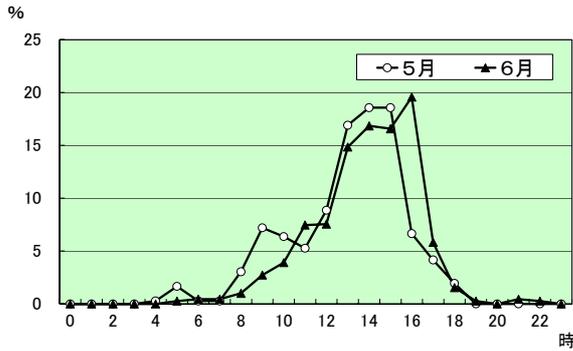


図 10 観光新道の下りの登山者数における月別の時間帯別割合

かに小さくなっていました。図 10 の 7、8 月のデータや図 11 より、観光新道の下山者の多くが、山小屋宿泊者であることが推察されました。また、図 11 より砂防新道は日帰りとし、山小屋宿泊者が半数程度ずつ下りに利用し、観光新道は圧倒的に山小屋宿泊者が下りに利用する率が高いことが推察されます。

観光新道も唯一 9 月は 2 つのピークがあり（図 10）、砂防新道の夏の状況と同じく、日帰りとし、宿泊者がそれぞれ下山利用すると推察されます。また 10 月は、早い時間、遅い時間、その中間とピークが 3 つあり（図 10）、これは秋山特有の日の出の遅さと日の入りの早さによって、宿泊者の少し遅い時間の下山と、日帰り登山者の早い時間の下山が重なった故の中間のピークとも推察されます。



最後に

今回の調査で砂防新道への登山者の一極集中が、あらためて確認されました。今後は、さらに継続調査や登山経路調査・登山者の意識調査なども行い、登山の分散化や山麓も含めたゆったり型の利用の仕方なども検討し、自然を傷めずに、私達の子や孫たちに白山の豊かな自然環境を保全し、適正に利用していく方法やあるべき登山道の姿などを模索するための基礎データとして活用したいと考えています。

<環境省白峰自然保護官事務所>

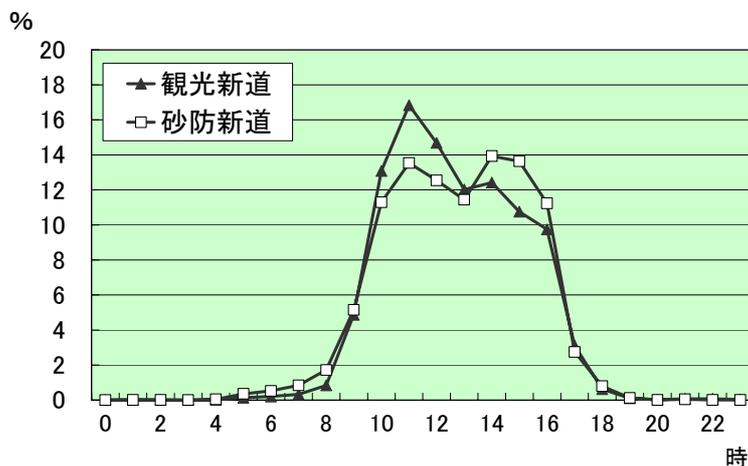


図 11 砂防新道・観光新道における下りの登山者数の時間帯別割合

平成 16 年のツキノワグマの 出没被害と捕獲

林 哲

平成 16 年には県下各地でクマが出没し、多くの被害をもたらし、5 月から 11 月までの間に 166 頭が捕獲されました。家屋に侵入し、多数の交通事故に遭い、これまでにみられなかった行動が多発しました。

クマが出没した背景には、山地帯のドングリ類の不作や中山間地の荒地の増加、広葉樹林の増加、林地利用の減少など里地・里山の様々な実態が影響しているとみられています。このような現況から、平成 16 年のクマの出没や捕獲の実態について整理しました。



人里での捕獲が多かった

平成 16 年 4 月から 12 月まで、クマが出没した市町村及び集落（地区）の記録は、合計 1,878 件に上り、18 市町村（平成 16 年 12 月現在、市町村数については以下同様）、400 集落（地区）にクマの出没が認められました。このうち金沢市、小松市、加賀市、津幡町、鳥越村（現白山市以下同様）、鶴来町（現白山市以下同様）、辰口町（現能美市以下同様）の 7 市町村で約 85%（338 地区）が確認されました（図 1、図 2）。

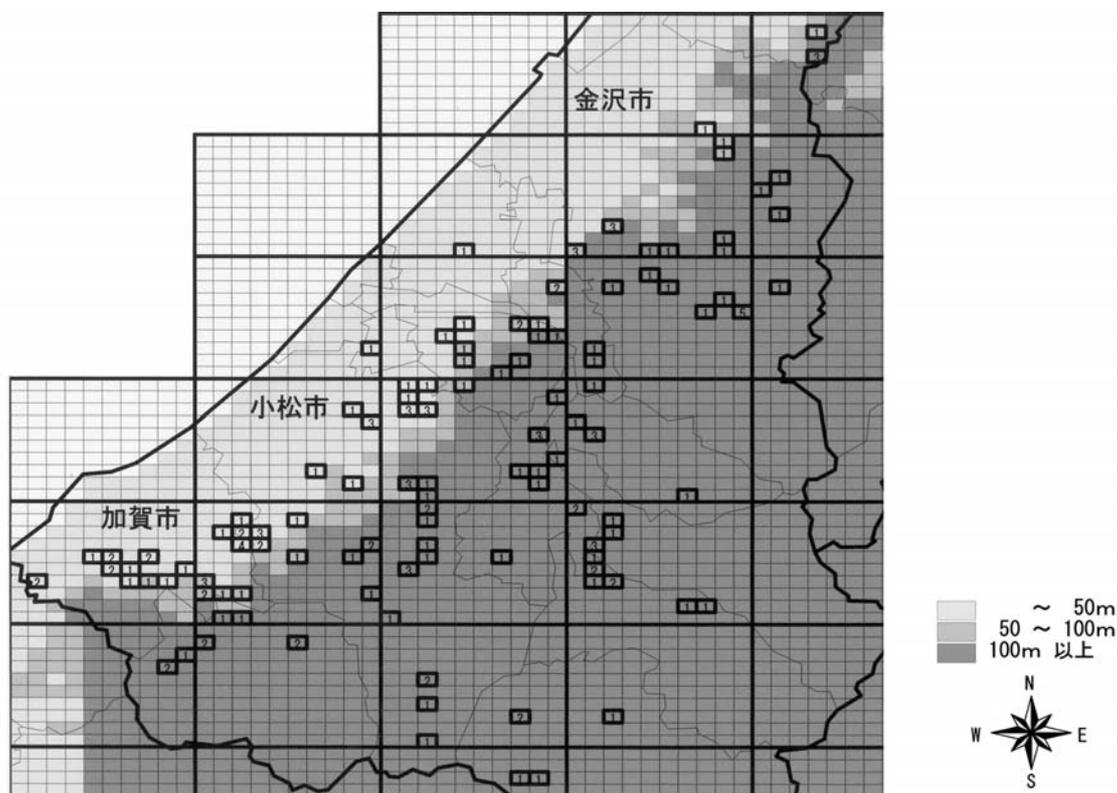
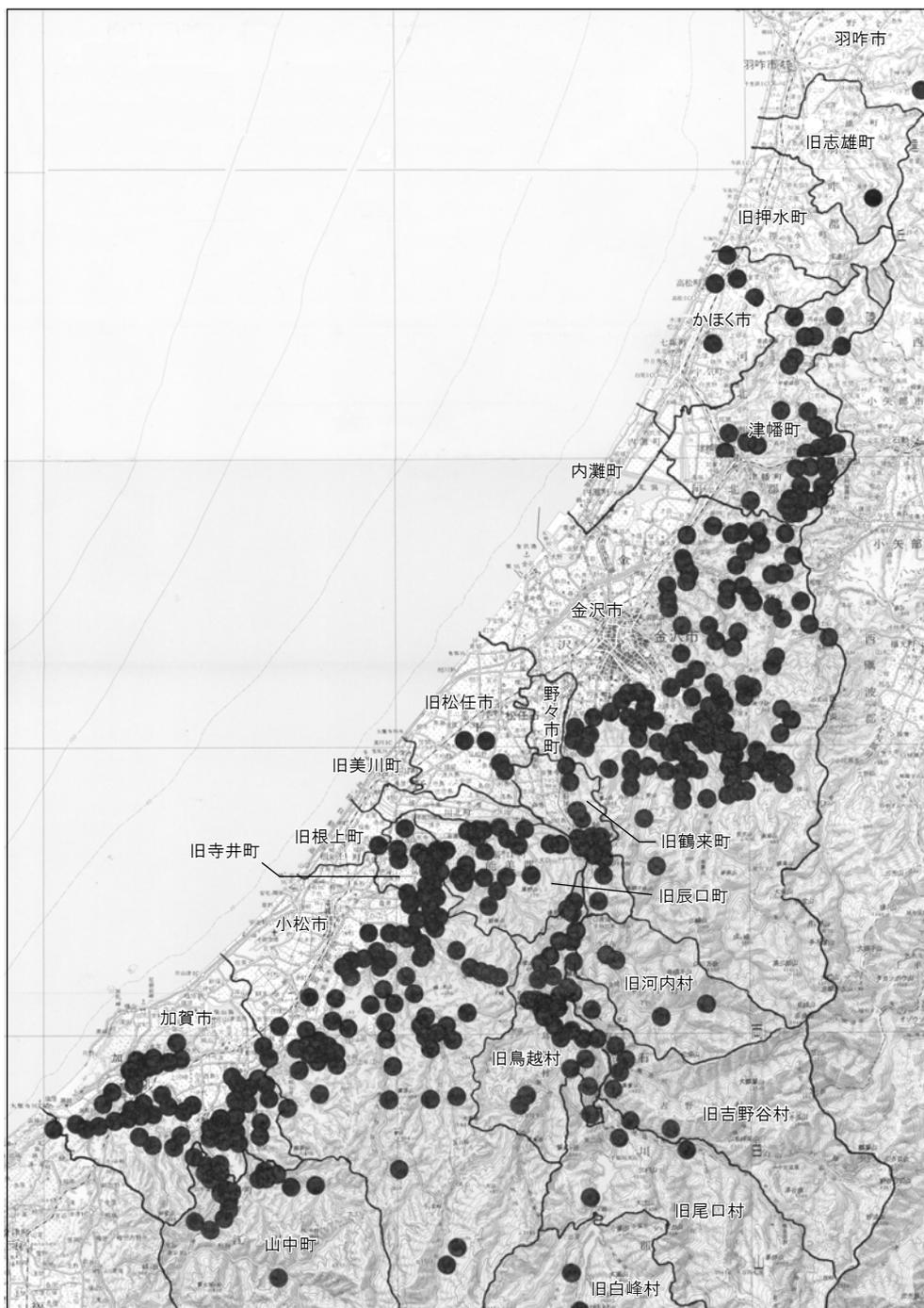


図 1 クマの捕獲分布と標高（平成 16 年 5～11 月）
□の中の数字は捕獲数



※市町村合併について
 松任市、美川町、鶴来町、
 河内村、吉野谷村、鳥越村、
 尾口村、白峰村は白山市
 (平成 17 年 2 月 1 日)に、
 根上町、寺井町、辰口町は
 能美市(平成 17 年 2 月 1
 日)に、志雄町、押水町は
 宝達志水町(平成 17 年 3
 月 1 日)にそれぞれ合併した。

図2 クマの出没・目撃記録の位置(平成16年4月~12月)
 国土地理院発行20万分の1地勢図「金沢」、「七尾」使用

金沢市、小松市、加賀市など14市町村で166頭が捕獲され、そのうち金沢市、小松市、加賀市など6市町村で約83%(137頭)が捕獲されています。加賀産業道路沿いの小松市軽海町、遊泉寺町や加賀市分校町、栄町周辺や国道8号線沿いの加賀市熊坂町、細坪町周辺などのほか辰口町宮竹町、岩本町などの地域で、特に多く捕獲されています。このうち9月から11月までの121頭(捕獲地の標高の判明個体)のうち66%(88頭)が、標高100m以下の地域で捕獲されたものでした。これまでの捕獲実績では(平成12年~同15年の36頭)、標高100m以上で捕獲される傾向がありましたので、平成16年はこれまでとは明らかに異なり、人里(低標高地)へ多数のクマが移動してきたのではないかと推察されます(図3)。

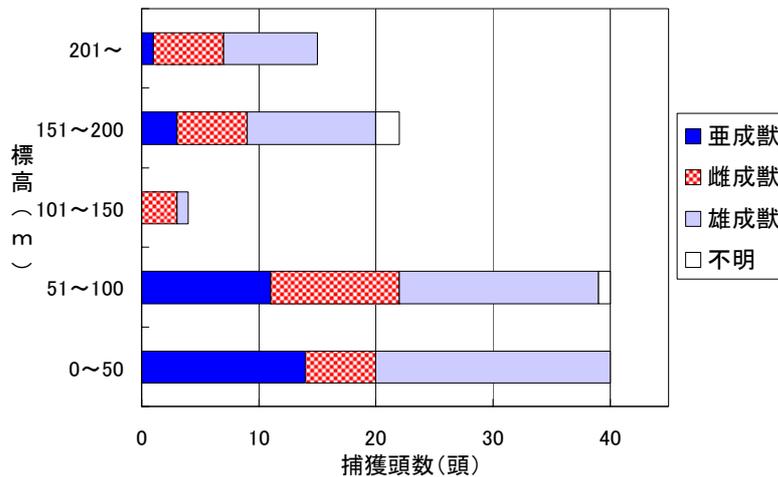


図3 クマ捕獲地の標高分布

平地での捕獲

小松市打越町(雌)、松任市(現白山市以下同様)宮丸町(雄)、寺井町(現能美市以下同様)寺井(雄)、辰口町山田(雄)における4頭は山から離れた平地で捕獲されたものですが、いずれの個体からも作物や果実種子が検出されましたので、カキなどを採餌しながら平地に徘徊したことがうかがわれます。10月8日に松任市宮丸町で捕獲された個

体は通常の分布地域から6~7km離れた水田地帯であり、きわめて珍しい例です。この個体の胃から大豆が検出されたので、畑作物を採餌していたことが分かりました。また、寺井町寺井(7月19日)と小松市打越町(10月22日)で捕獲された個体からカキの種が、辰口町山田(10月23日)で捕獲された個体からは、手取川河川敷のグミを食べていたことが確認されています。



様々な被害があった

人身被害

本県では過去11年間(平成5年~15年)に13件14人がクマの被害にあっていますが、平成16年には、5件5人が被害にあいました。金沢市で2件(①男性71歳、4月28日、同市湯涌町で山菜採集中に遭遇、顔裂傷。②男性65歳、11月10日、同市四十万町で成獣雌に襲われ頭部・胸部等裂傷)。小松市で2件(①男性71歳、9月25日、同市遊泉寺できのこ取り中に遭遇、顔と腕に裂傷。②男性57歳、10月3日、同市軽海で散歩中に子連れ雌に遭遇、右腕に軽傷)。松任市で1件(男性20歳、10月8日、同市村井町の自宅玄関先で成獣雄に遭遇、左腕裂傷)。そのほか9月29日に金沢市吉原町で高校生がクマに追われる被害も発生しました。

家屋等の侵入被害

10月19日、山中町今立町で住宅への侵入被害がありました。住宅侵入被害は県内では初めての例です。また、金沢市七曲、大平沢、大菱池、樫見、高池など5地区ではいずれも納屋に侵入、高池町では、酒粕を食害されていますが、これも初めての事例です。また、加賀市熊坂町(9月25日)と金沢市折谷町(10月15日)では板塀やガラスの破損被害を受けています。

墓石倒壊被害

ハチミツを採餌するためにクマが墓石を倒す事例は、これまでまれにありましたが、平成16年は10件発生しています(金沢市7件、小松市・加賀市・鶴来町各1件)。クマは里山地域に多数出没し、食物を探していたことを示していると思われます。

果樹被害

金沢市情報の約1/3(104/332件)はカキに被害があったことを示しています。カキやクリ、リンゴなど中山間地の果実は野生動物にとって魅力的な食物だと思われます。特に平成16年は山地帯のドングリ類が不作であった影響で果樹被害になったものと思われます。



クマの交通事故

これまでまれにクマの交通事故があったことが知られています。しかしながら平成 16 年には 9 件のクマの交通事故があり（金沢市・小松市各 2 件、加賀市 3 件、辰口町・鶴来町各 1 件）、このように 1 年間で多数の事故があった年は始めてです。車のスピードや出没地域の環境に慣れていないクマが事故に遭遇したのではないかと考えられます。



雄が多く、子連れ雌も捕獲された

＜雄が多かった＞：成獣雄では成獣雌の約 2 倍

捕獲個体 166 頭の雌雄の比率は雄 65%（107 頭）、雌 35%（58 頭）、不明 1 頭で、雄が多い傾向がありました。このうち成獣雄は成獣雌の約 2 倍でした。クマの行動圏は、ドングリ類の不作の年は行動圏が大きくなることが知られていますが、特に雄グマの行動圏は、通常の年でも広い行動圏を持っているとされているので、平成 16 年に里山に捕獲された個体は、山地帯から移動してきた可能性が十分考えられます。

従来の雌雄比率に比べると（平成 12～15 年の 36 頭の有害捕獲実績では、雄 78%（28 頭）、雌 22%（8 頭）となっており、かなり雄が多い傾向がありました）、平成 16 年の捕獲比率は雄がやや少なく、雌が多くなっている傾向がみられます。

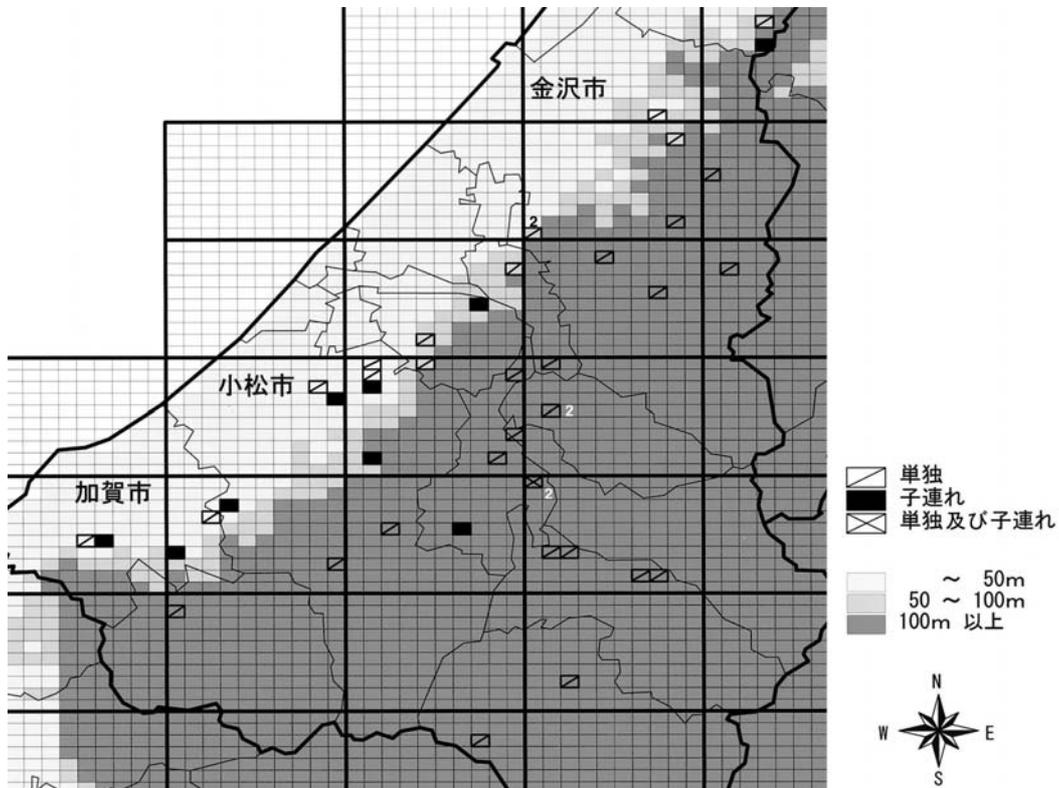


図 4 子連れ雌と成獣雌の捕獲分布
図中の数字は頭数。数字のないものはすべて 1 頭

<子連れ雌及び亜成獣>

捕獲された成獣雌 44 頭のうち、10 頭は子連れ雌で、しかも当歳子（当年生まれ）と思われる子グマを連れていたことが分かりました（図 4）。また推定 3 歳以下の亜成獣 36 頭のうち、小松市軽海町、那谷町、加賀市熊坂町などの里山地域で母グマと行動していたと思われる 1～2 歳の子グマが 24 頭認められています。

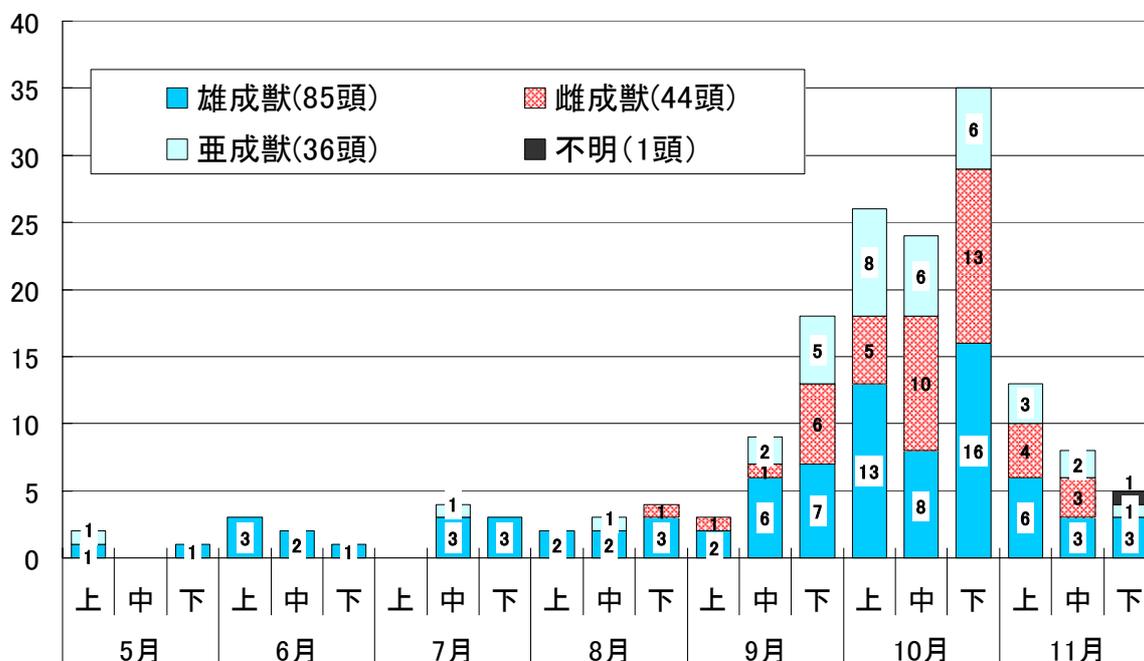


図 5 石川県におけるクマ捕獲の推移 (旬別・性別等)
グラフ内の数は捕獲数



捕獲は 9 月から 10 月に多かった

166 頭の捕獲について月別経過を見てみると 7 月ごろから捕獲数が増えはじめ、9 月中旬から 11 月中旬までの 2 か月間の捕獲数が多くなり（約 80%、133 頭）、そのなかでも 9 月下旬から 10 月下旬に特に多かったことが分かりました。通常、有害捕獲による捕獲数は夏頃に多く、秋には少なくなる傾向がありましたが、平成 16 年は全く逆でした。10 日間ごとの捕獲傾向では、9 月下旬には 18 頭捕獲され、10 月上～中旬には 24～26 頭、10 月下旬には 35 頭捕獲されました。これは 9 月から 10 月に里山地域のカキやクリ、リンゴなどの果実の实りに合わせて出没した結果ではないかと思われる（図 5）。

成獣雌の捕獲は 8 月下旬から始まった

5 月から 8 月中旬までは成獣雌（推定 4 歳以上）の捕獲は無く、初めて捕獲されたのは 8 月下旬になってからでした（図 5）。あわせて子連れ雌も捕獲されるようになってきました。これらの捕獲状況を推察すると里山地域に定着していた成獣雌が捕獲された可能性もありますが、カキやクリなどの果実を求めて成獣雌が山地帯から里山地域に移動してきた可能性も否定できません。山の果実類の不作時のクマの出没被害や行動・生態については、まだまだ分からないことが多く、今後もっと基礎資料を収集し、分析したいと思います。

<白山自然保護センター>



ナバタに目凝らす

白山まるごと
体験教室

「ツキノワグマを探そう」で親子ら

市ノ瀬ビジターセンター



白山まるごと体験教室「ツキノワグマを探そう」は5月15日、白山市白峰の市ノ瀬ビジターセンターで親子連れら31名が参加して行われました。

あいにくの雨模様ながら、一行は新緑のブナ林を歩き、登山道沿いの観察点から出没頻度の高い対岸のナバタ（草地）に目を凝らしました。残念ながら霧が山肌を包み、姿は見えませんでした。クマの棲む白山の豊かな自然を肌で感じ取ることができました。

市ノ瀬ビジターセンターへ帰った後は、白山自然保護センター職員からクマの生態などの話を聞き、一層理解を深めました。

「真っ黒い動くものはいないか」。観察点で双眼鏡を手にクマの姿を探す参加者



雨模様の中、双眼鏡をかざす親子



クマのえさはたっぷり？

クマの棲む森では花をいっぱいつけたブナが多く見られ、地表にもたくさん落ちていました。昨年はクマのえさとなるブナの実が不作で、里地への異常出没の一因ともみられました。それだけに参加者は「今年はクマもたっぷりブナの実を食べられそうだね」と、ホッとした表情で話し合っていました。

ブナの花の付き具合を観察する参加者



発見 驚き 感動

市ノ瀬ビジターセンター
中宮展示館

白山市白峰の市ノ瀬ビジターセンターと同市中宮の中宮展示館では、それぞれ周辺の観察路を散策するガイドウォークや館内の各種展示を通じ、来館者に白山の自然に親しんでいただいています。



ガイドウォークを楽しむ
参加者 = 市ノ瀬周辺

楽しい館内展示

中宮展示館では動植物から化石まで、白山の自然がまるごと展示されています。目で見るだけでなく、手でさわったり、耳で聞いたり、様々に工夫が凝らされ、来館者に楽しい発見と驚きを提供しています。

市ノ瀬ビジターセンターでも、周辺の自然を観察記録や写真で「市ノ瀬の今」としてお伝えしています。

ガイドウォーク始まる

ガイドウォークは5月の連休から始まりました。土曜、日曜、祝日に白山自然ガイドボランティアの皆さんや職員が自然観察路をご案内しています。5月初旬は市ノ瀬ではミズバショウやイワウチワ、中宮ではカタクリの群生が参加者に感動を与えてくれました。



ブナの木に登ったクマの展示
に見入る来館者 中宮展示館

ガイドウォーク

5月～10月の土、日、祝日の午前10時～正午、午後1時～3時の間で1、2時間。無料。事前申込み不要。団体（20人程度）の場合はあらかじめご連絡下さい。



市ノ瀬 集合場所：市ノ瀬ビジターセンター（0761-98-2504）
内容：ブナ林や白山の展望などを楽しむことができます。

中宮 集合場所：中宮展示館（0761-96-7111）
内容：春の草花、夏の清流、秋の紅葉などを楽しむことができます。



あんな話
こんな話

ミズバショウとカタクリ

新緑の5月15日、白山ろくの魅力の一つである白山市桑島の大嵐山のミズバショウは最盛期を迎え、3万株を越す真白の帆が立ち並びました。杉林の道をたどって谷間に降りると、その壮観に出会うことができます。何回も見た風景ですが、一度、都会育ちや暖かい地方の人たちに見せてあげたい感動のスポットです。

また、早春のゴールデンウィーク中、中宮展示館にある自然観察路と周辺のブナ植林地では、開館日の4月29日ごろからカタクリやキクザキイチゲの花が足の踏み場もないような群生を見せました。ミズバショウ、カタクリともに開花の最盛期は冬の積雪量に左右され、毎年、多少のずれがありますが、今年は少し遅めでした。

清楚なミズバショウと愛くるしいカタクリ。ともに私は大好きです。ミズバショウは、白山ろくでは大嵐山をはじめとする白峰地区と、瀬女高原など尾口地区を主な生育地にしています。また、カタクリは、加賀地区の里山から亜高山に至る白山ろくに群生地を持ち、分布は広いのですが、なぜか白峰地区では見当たりません。

(中宮展示館 田中 稔)



大嵐山のミズバショウ

お知らせ

県民白山講座

白山まるごと体験教室

手取川の水の恵み

日程：8月7日(日) 13:30~16:00

会場：白山市白峰・白山国立公園センター

定員：100名

講師：西田谷 功(鳥越村前教育長)
白山自然保護センター

白山と温暖化

日程：10月30日(日) 13:30~16:00

会場：金沢市・石川県立生涯学習センター(予定)

定員：200名

講師：名取 俊樹(国立環境研究所主任研究員)
白山自然保護センター

川虫と川遊び

日程：7月31日(日) 9:00~15:00

集合：白山市中宮・中宮展示館

定員：30名

化石で探る太古の白山

日程：8月28日(日) 9:00~15:00

集合：白山市木滑・石川県白山自然保護センター本庁舎

定員：30名

秋の音、ネイチャーコンサート

日程：9月17日(土) 13:30~16:00

集合：白山市中宮・中宮展示館

定員：50名

紅葉のブナ原生林

日程：10月16日(日) 9:00~15:00

集合：白山市白峰・市ノ瀬ビジターセンター

定員：30名

対象 子供(小学生以上)~大人
(参加費無料)

申込み・問合せ 白山まるごと体験教室は電話で当センター(0761-95-5321)までお申込み下さい。約1か月前から受付を開始します。県民白山講座は申込み不要です。当日直接会場へお越し下さい。

センターの動き（4月1日～6月20日）

- | | | | |
|------|---|---------|--|
| 4.10 | 白山自然ガイドボランティア研修講座第1回
(金沢市) | 5.21-22 | 白山スーパー林道ウォーク (中宮展示館) |
| 4.16 | 京都市教員OB会案内 (ブナオ山観察舎) | 5.26 | 白山麓の里地里山における人文環境と生態系
モニタリング調査第1回検討会 (金沢市) |
| 4.21 | 白山自動車利用適正化連絡協議会総会 (本庁舎) | 5.28 | 白山市いきいき体験塾案内 (中宮展示館) |
| 4.29 | 中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター開館
寺井町チングルマ案内 (中宮展示館) | 5.29 | 白山まるごと体験教室「新緑のブナ原生林」
(市ノ瀬ビジターセンター) |
| 5.5 | ブナオ山観察舎閉館 | | 能美市根上スポーツ少年団案内 (中宮展示館) |
| 5.7 | 小松市立博物館ミュージアムキッズクラブ案内
(中宮展示館) | 5.31 | 石川なごや学芸大学講座講演 (名古屋市) |
| 5.9 | 京都府嵯峨野高校PTAOB会案内
(市ノ瀬ビジターセンター) | 6.7 | 白山市鳥獣害防止対策連絡協議会 (白山市) |
| | 白山麓別当谷安全協議会 (白山市) | 6.10 | 金沢学院大学合宿研修講演 (白山市) |
| 5.11 | 石川県博物館協議会総会 (金沢市) | 6.11 | 白山文化研究会講演 (勝山市) |
| 5.15 | 白山まるごと体験教室「ツキノワグマを探そう」
(市ノ瀬ビジターセンター) | 6.18 | 県民白山講座「白山登山と高山植物の集い」
(白山市) |
| 5.20 | 石川県高等学校教育研修会生物部会講演 (羽咋市) | 6.19 | かほく市しらゆり学級案内 (中宮展示館)
白山市セルプあさがお案内 (中宮展示館) |

編集後記

本号では、白山の登山者数調査について環境省の加藤さんに紹介していただきました。これまで白山の登山者数については推定人数でしかわからなかったことが、この調査で正確にわかるようになりました。白山の総登山者数や砂防新道の利用率の高さがはっきりとわかります。今後、白山の保護管理を進める上で大切な基礎的資料となります。

昨年、石川県内ではクマが異常出没しました。クマが異常出没した主な原因として、クマの餌であるドングリ類などが山で不作であったことが影響していると言われていています。しかし、今年はブナの花が咲き、ドングリ類についても今のところ豊作の兆候があるようです。昨年のようにクマがたくさん捕獲されずにすむよう豊作を期待したいと思います。

白山の自然誌 25「白山登山道の侵食」を発刊しました。自然条件の厳しい山岳地域ではちょっとした影響で自然の荒廃が進みます。本誌では、白山の主要登山道において、人（登山者）の踏みつけやけとばしにより登山道が侵食される実態を紹介しました。登山に対するマナーの大切さを理解していただければと思います。ご希望の方は、送料（140円切手）を負担していただければ郵送しますので、当センターまでお申込み下さい。

(小川)

目次

表紙 大笠山からの白山	上馬 康生 ... 1
白山の登山者数	加藤 雅寛 ... 2
平成16年のツキノワグマの出没被害と捕獲	林 哲 ... 8
はくさん 山のまなび舎だより	谷野 一道 ...13

はくさん 第33巻 第1号 (通巻135号)

発行日 2005年6月20日(年4回発行)
 編集発行 石川県白山自然保護センター
 〒920-2326 石川県白山市木滑又4
 TEL. 0761-95-5321 FAX. 0761-95-5323
 URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
 E-mail hakusan@pref.ishikawa.jp
 印刷所 前田印刷株式会社